

企画展

短い詩と写真は、いずれも独創的な経験を喚起力ある瞬間に凝縮する藝術で、

これは極めて日本人の肌に合ったことなのだった※

かまいたち

ドナルド・キーンと写真集

鎌鼬



細江英公 〈鎌鼬〉作品 49 (1968)
東京都写真美術館蔵
画像提供：東京都写真美術館 / DNPartcom

To Donald Keene
For Peace

細江英公『死の灰』(2007) 贈呈文
一般財団法人ドナルド・キーン記念財団蔵

2025年4月2日(水)～2025年6月29日(日)

開館時間：10時から17時（最終入館16時30分）

休館日：毎週月曜日・火曜日

入館料：大人500円・中高生200円・小学生100円

（入館料で企画展をご覧ください）

主催：公益財団法人ブルボン吉田記念財団

協力：一般財団法人ドナルド・キーン記念財団

細江英公写真芸術研究所

慶應義塾大学アート・センター

東京都写真美術館

生成空間オドラデク

株式会社DNPアートコミュニケーションズ

酒井著作権事務所

AKIO NAGASAWA Gallery

角地幸男

特定非営利活動法人鎌鼬の会

株式会社ブルボン(敬称略)

ドナルド・キーン・センター 柏崎

DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI
新潟県柏崎市諏訪町 10-17 TEL 0257-28-5755

www.donaldkeenecenter.jp/

※ドナルド・キーン・細江英公の写真

一八五四年、ペリー艦隊の従軍写真家ブラウンが上陸。
そのときはじめて日本人が撮影されてから一五〇年余り、
日本の写真は長い道のりを歩いてきた。
最初は主に被写体の虚栄心を満足させる方法として、
その後は日本の美を捉える手段として、
そして今、細江英公の写真で複雑かつ極めて現代的な精神の表現として※